旭川市子ども・子育て審議会
令和5年度第1回就学前教育及び保育についての
各種基準の見直しに関する専門部会会議録

- 日時 令和5年8月24日(木) 19:00～19:40
- 場所 旭川市子ども総合相談センター 2階 研修・会議室1・2
- 出席委員 浅野委員, 佐藤委員, 松林委員, 吉田委員
- 事務局 子育て支援部
こども育成課 宮川課長
保育給付係 藤永補佐, 中見主査, 長野主査
- 傍聴者 0名

○ 議事概要

- 1 開会
- 2 議事

(1) 運営について

部会長の選出及び職務代理者の指名については、佐藤委員が部会長として選出、松林委員が職務代理者として指名された。

また、会議運営のルール決定については、会議の記録の確認者は部会長及び職務代理者、会議の記録の内容については、要約的に作成し、発言者の表記方法は委員個人を特定しない表記、傍聴者の発言は認めないことに決定した。

(2) 調査審議事項

医療的ケア児保育支援事業(案)について

※事務局より資料1「旭川市医療的ケア児保育支援事業(案)」について説明。

説明終了後、各委員から質問・意見等があった。主な事項は次のとおり。

(事務局)

医療的ケア児の受入れについては全市的に進める必要があると考えており、医療的ケア児保育支援事業案として、主に民間施設に対して、医療的ケア児の受入れに要する経費を補助することで受入れを推進しようとするもの。

医療的ケア児の受入れに関して、まずはニーズの把握や課題の抽出を行いながら、段階的に拡充していく考えであり、市立保育所1か所については令和6年度中に看護師を常時配置して、いつでも医療的ケア児を受け入れられるような体制の整備を図るほか、関連す

る研修を職員が受講することによってスキルアップを図りながら民間の保育施設と合わせて受入れを進めていくことを検討している。

令和7年度からは、市立保育所は全市的な拠点としての機能を有する保育センター（仮称）として運営を進めることを検討しており、民間施設の医療的ケア児の受入れに関して、保育センターが保護者・施設間の調整業務、実務指導、研修業務を担うほか、医療機関など関係機関との連携体制も検討したい。

令和8年度以降は、令和6年度、7年度のこれまでの取り組み結果を踏まえ、保護者のニーズに合わせて、サービスの拡充を検討していきたいと考えている。

（委員）

現在、保育所等で医療的ケア児の受入れは行っているのか。

（事務局）

新旭川保育所で医療的ケア児を1人受け入れている。民間の保育園等でも、医療的ケアが必要な児童を実際受け入れているが、看護師の配置がなく園では医療的ケアが出来ないため、例えば保護者が昼休憩の間に来て胃瘻の経管注入をするというケースも何件かある。

（委員）

公立の保育所では、医療的ケアという言葉が広く認知される前から比較的重い症状の児童を受け入れていたという実績がある。旭川市は歴史としては比較的長い。

（委員）

医療的ケア児のニーズは把握しているか。全体で何人くらい受け入れることを見込んでいるのか。

（事務局）

未就学の医療的ケア児のニーズは、関係機関等で相談を受けている人数を確認したところ7名ということであり、来年度予算についても7名程度を想定して積算していくことを考えている。把握できていない部分もあるので、潜在的にはもっと多くの保育所等の利用を希望する医療的ケア児がいるものと考えている。

（委員）

訪問看護事業所から看護師を派遣する場合は、保育施設が直接委託契約を結ぶのか、それとも市から派遣を依頼するのか。

(事務局)

訪問看護事業所を利用する場合は、民間の保育施設と訪問看護事業所で契約を結び、看護師を派遣してもらい、そこで発生する費用について、当該事業を使って、市が補助するという形となる。

(委員)

訪問看護事業所からの看護師派遣の場合、1人の医療的ケア児に対し、派遣される看護師が常に同じ人であるという認識で良いか。日によって違うとなると、児童の発達に望ましくない影響が出る。

(事務局)

民間の施設が訪問看護事業所と直接契約する際に、同一の看護師を派遣できるよう仕組みを検討したい。

(委員)

NICUの充実など医療的技術が向上することによって助かる命が増えるが、重い障害を背負って生きていくという子どもも増えている。特に医療が整っている旭川だからこそ、この事業をしっかりと整備していただきたい。

(委員)

小学校でも看護師を配置して医療的ケア児の受入れを行っている学校がある。未就学の年齢でも医療的ケアが充実され、そこから小学校に繋がっていくのは心強い。

(委員)

保護者の方の就労に繋がって行って、それぞれが生きがいを持って生きていくことができるという一つの柱となる事業だと思う。良い試みなので、ぜひ予算が通ることを期待する。

(委員)

他に意見がなければ、本部会の意見としては、事務局案のとおりとするということであるか。

(一同)

了承。

(委員)

それでは、本部会の意見は、事務局案のとおりということになったが、なかなか簡単な事業ではないと思うので、丁寧に進めていただき、児童や保護者が本当にこの園に通えて良かったなというふうに思える体制をしっかりと作っていただきたいと思う。

3 その他

事務局から、本部会と児童福祉施設等整備部会について、子育てに係る支援の新制度が始まった際には膨大な案件の議論を行ってきたが、新制度に伴う様々な基準の作成、保育所の整備が落ち着いて来たことから、来年の委員改選期に合わせて、密接な関わりがある二つの部会を一つに統合することを検討する旨の報告を行った。

4 閉会